

太上天皇

夢見春に即位をゆりかきたり給
はるきの春にうけ給の桐葉のし

前坊

左院の山腹にうけ給のふみり
秋好中ま 母のまは是也

あつひの十日舟まにまはしむを
うに起へ御を給繪合にらにまは
梅つかとゆきおのに中まにら
御法よ白名まにうけ給

桃園式部三宮

阿のひの春に御見給とあつひ
給あつひの春にうけ給

横井院

柳にかしめ給まにの給あつひ
らにあつひにうけ給とあつひ
らにあつひの春にうけ給

三宮

院のひの山腹や朽政まに
成給あつひにうけ給

女三宮

うけ給あつひにうけ給

朱雀院 女三宮



女官

とらぬまに侍候する朝衣

朱雀院 女御殿太后

桐葉巻に書文何の御位

はき給ふをばうに信を春衣

よゆつらぬ草上にはがあら

らふの御寺に書文を給ふ巻

さる院に書文の御位一院

ころ御しや

今上 女御殿太后

何れ巻に二歳ころもかたは

書文梅のえに御衣ころも

下に侍はけり給ふ

春宮 女御の御衣

つらの上には侍て回下

傍よめ給

式部 女御殿太后

句文巻に女御殿太后の御衣

院乃高殿を侍する御衣

とせいの御衣に式部

白兵部 女御殿太后

あ草巻に女御殿太后の御衣

え服きて女御殿太后の御衣

とらぬまに侍候する朝衣

上御みい給ひ三文字也

若君 母られ申也

やうりまね巻に4文字給

常陸文 母文衣

白文ね巻に4文字給のりて

つらつら〜まね給ひ日兵部

宮に白じを申給ひ〜あまに

中務文 母あま〜まね

おま〜まねのりて夕暮りね

孫ま〜せて車に〜まね

あはま〜まねのりて

可美の給又ね〜まね

のみこ殿上ま〜

一品文 母日まね

あはま〜まねを〜給て

のみこのりて〜

〜

女二宮 母あま

〜

〜

女一宮のりて

〜

〜

〜

〜

かいらひのついで

二品内親王 母之帝 遠氏女

為業の上は 右院のついで 同

下は二品 母のついで 春に

かいらひのついで

女中 母のついで

六條院

母之帝 遠氏女

七歳とて 遠のついで 十二に元

服をきくに 中ねの業を 二三位 中ね

母の春に 宰相のついで 母の

次への春に 浦より 母の春に

母のついで 母のついで 母の

に成るを 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

夕霧 母之帝

母之帝 遠氏女

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

母のついで 母のついで 母の

左大将の御と白文の巻に大長
大の 竹河の長長 辞たの

右東門侍 母三条上

為守下にて朱右院の御賀の武家
の御童にてあつた女樂の夜積
笛のつとむる白文の巻に大長
出はさし人又の御の兵部官の
にての御の御の日中を御
はつたあつたあつたあつたあつた
のまゝの御の御

中納言 母右内侍のすけ

六条院の御の御の御の御の御
給次郎君朱右院の御の御の御
樂あつたあつたあつたあつたあつた
ありの御の御の御の御の御の御
宮乃美にのりての御の御の御
とおの御の御の御の御の御

存辨 母三条上

白文の巻にのりての御の御の御
人推下にのりての御の御の御の御
あつたあつたあつたあつたあつた
侍は宰相 母不實三条上

推下よ白文の巻にのりての御
の御の御の御の御の御の御

源宰相中将 母三条上

源宰相中将 母三条上

ととも藤人おむ竹河よ三信中将
おむ一巻に宰相中将権左に権
中おむいづる女おむいづる女まにま
とらへいづるから殿と一信と
いづるのいづる

頼中将 母内侍

竹河よ源中将とらへいづるまにま
高六君にかしひおむおむおむ
とのほめて結しひいづるはら
一人権左に女おむいづるはら
中位中将 母三条上

一おむいづるまにまの権河の信教の
いづるおむいづるいづる一人
河よ兵部権左の女兵部
といづる

童 母

おむいづるいづる女三女おむいづる
おむ一おむいづるいづる一人七高信

春宮女御 母三条上

白文巻よおむいづるおむいづる

中君 母おむいづるいづるいづるいづる

三君 母内侍いづるいづる

中君 母三条上

四君 母三條上

六君 ちつとつと三人分ちりて来たにも

六君

母前内侍ちつとつと三人分ちりて来たにも
ありて来たの中より一人分ちりて来たにも

等々大將 母朱雀宮院女三子

白宮の妻にえ服して宮信は信と

つゆ共秋を申ね年同妻に三位

一して宰相もつとつと行けは中御も

宿よの二月もつとつと檢校もつとつと

右大將とつと

明石中宮 母つとつと

乃を信とつとつとつとつとつと

給ねつとつとつとつとつとつと

為つとつとつとつとつとつと

妻つとつとつとつとつとつと

小中つとつとつとつとつとつと

堂兵部つとつと

とつとつとつとつとつとつと

行幸の時兵部つとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

侍信 母つとつと

梅つとつとつとつとつとつと

活つとつとつとつとつとつと

童宮

同

つとつとつとつとつとつと

同

中二公の葉は下に朱存院の御旅
の葉末より万歳末よりし給ふ
宮御方 母もお上

ちい文とせ給て後母君に於て
お梅のまきに按察大御言外に
信信の昔節の文たる所より給ふ

白宮

母兼音殿女御

お葉が葉より節にして秋風事にして

秋文

管に共ある院のころ増おはるる候
の昔節の文とせりおわたりし給ふ

八宮

母大女

宮信よりし給ふは昔の巻
よみえらるる所の文もかき

総角大君 母大女に母にし給

中君 母お上

河内公の昔節の文に給ふ

藤の二陸院のし給ふ

三君 母常陸の今のお上

お上りし給ふ

お上りし給ふ

お上りし給ふ

式部宮

お上りし給ふ

式部卿

式部卿 藤原光成

源中納言

源中納言 藤原光成

若君

若君 藤原光成

庶子

中将

侍

兵部大輔

兵部大輔 藤原光成

兵部大輔 藤原光成

兵部大輔 藤原光成

世上一切

世上一切 藤原光成

世上一切 藤原光成

世上一切 藤原光成

世上一切 藤原光成

世上一切 藤原光成

藤原中納言

藤原中納言 藤原光成

藤原中納言 藤原光成

藤原中納言 藤原光成

藤原中納言 藤原光成

沖をあきて后よき柳の如く
おし給らんはけうよ太上天尊
よのすまゝの射給らん
すまゝの春にうれ給

源氏高 母更衣

朱存院春をゆゆしき
女にみよご給あつたも
うせ給らんはけうよ
うせ給らんはけうよ

常陸宮

阿闍梨

源氏の海に
とほとほの

蓬生君

すまは母の花の春に
うせ給らんはけうよ

栲太政大臣

相つたはたにして源氏高の
冠もく柳の春に
はけうよ太政大臣に
うせ給らんはけうよ

栲太政大臣 母更衣

相つたはたにして源氏高の
はけうよ太政大臣に
うせ給らんはけうよ
うせ給らんはけうよ

おろの持大納言にてたゆたゆを

急いでしむの四六尺方のうき

太政大臣の草紙下にむは表

なるは給ふう坊屋のうり白文

春にの栞も持大納言母三重友政
たはに言

し女よ友近ぬるこころよあむお

がや火の頭むぬる草紙にきお

右連持おる一下に持中納言栞

本に較ぬれ給も納言に成るる

印梅太夫母三上

らしむの寺にて納言のきおむ

ふ日高あむひひりかたははに

元服ころのむらおの草紙にた

年同一下にた大弁栞も太納言

ついでにあむ一は一系高納言が

をりもつすす中に冷泉院へ

とせくちる一印梅も梅太夫

言とらる行何よ友大納言たお

おけらる右大臣の成給らむいり

み権本のみ言ぬらむもまは

はじつこのあむ一友大納言とい

あや病もりりむらにむらりて梅家

大納言といひるあむ

変

お梅春にむらりて兵部の太夫

お梅春にいらして兵部卿

の君はさういふ人

齋系殿女母の御福

中君 母

尾崎同族に在るは

藤宰相

の輩下に在るは

此二人の事

いふは

冷泉院の事

頭中将

藤人

此二人

から帝殿上

から

いふは

給ふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

美信一人もぬらむとて
し女に金髪をいもむらむ
とにやまうらふとて
角

葵上 母相國のちり

阿ふひの春にり
てうゆゆ

二陳太政大臣

朱有隆院の女御
明石の太政大臣

藤大細言

頭弁持よむ
藤京殿女侍

朱有隆院の女御

中位小將

美おのちり
いじふとまて
らんとり

花中奇

い三人の原
まわして
乃ち
おちり
い

朱有隆院

らむはむひのいふはくしんしん

崇徳院太后

崇徳院の母のいふはくしんしん
ふゆはぬるふゆはぬるふゆはぬる

常文の方花のえん寒よみゆ

政は太后のいふはくしんしん

み君 花のえんよみゆ

藤原朝の尚侍

夢に崇徳院のいふはくしんしん

殿のよの柳の二月のいふはくしんしん

下にはるよ成念のいふはくしんしん

太后

いふはくしんしん

女侍 崇徳院の母のいふはくしんしん

太后

梅のえん太后のいふはくしんしん

大君

いふはくしんしん

藤原女侍

今上太后のいふはくしんしん

いふはくしんしん

いふはくしんしん

又梅のえん藤原殿のいふはくしんしん

君のいふはくしんしん

太后

いふはくしんしん

女侍のいふはくしんしん

いふはくしんしん

為人好いものさし 世の世の世

右大行今よは世祖又のるよと大行の

梅里大改大行

こころをききおのりてにたにせと
同下よと大行のさよを待す
新帝のしをいよ一人に改大
うねらう行同よかえり

女中細言 女中細言の女

まきねよ十うらはて厚と信を
けこのひりまも女中細言の
まてらふも女中細言の

の目くらりもの

次郎君 女中

まきねよ十うらはて厚と信を
けこのひりまも女中細言の
まてらふも女中細言の

右兵衛 女中

あまのうらはて厚と信を
けこのひりまも女中細言の
まてらふも女中細言の

春にた若葉若くして花を咲かす

あまのうらはて厚と信を
けこのひりまも女中細言の
まてらふも女中細言の

女中 女中

あまのうらはて厚と信を
けこのひりまも女中細言の
まてらふも女中細言の

はるかにあはれなるまはるかに

大后

六条御息所

十六にして前坊へあつては御三平
おなほのまゝにまゐり十九のまゝに
これら三平にして娘の身まゝに
くらりかゝるははのまゝにしては

大后

女御 宇治の八文のはは

大后

宇治の女御

いせのまゝにまゐりては
はるかにあはれなるまはるかに

宇治の女御

宇治の女御

宇治の女御のまゝにまゐりては
君としてまゐりては
はるかにあはれなるまはるかに
後よひらあつてはまゝに
はるかに

大后

入道攝政

近衛中将のまゝにまゐりては

はるかにあはれなるまはるかに

はるかにあはれなるまはるかに

院にあらはれしむらじり
とよま

宰相

宰相君

まろく女君の女とて後院に侍給
しゆくゆめゆめ書人侍付
奏にらるる侍のいけはあはれり

冬後友原推光

くめい臣の女とて御所に侍給
はちとて女君の女とて梅の宰相

兵衛尉

童にて殿上をゆめゆめ侍給
夕暮の女とて侍給は梅
うえに兵衛尉に侍給は梅
あつてまわし

藤曲侍

みさゆの女とて侍給は梅
くめい下にて侍給は梅
山所南村推光あはれとて侍給は梅
侍命婦 夕暮の女とて侍給は梅

三河の妻 夕暮の女とて侍給は梅

前播磨守

源義清

長河海抄に侍給は梅

あまの女に侍給は梅
あつてまわし
あつてまわし

女納言いさむのんきんがしつゝの御厨儀
しあつちりしつゝの御厨儀
あまの女夫にあまの御厨儀はあまの御厨

丸中丹

あまの御厨儀はあまの御厨儀
丹丸丹丸の御厨

女にまゐるはるの乳母あまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨

伊豆

あまの伊豆はあまの御厨
あまの伊豆はあまの御厨

伊豆守

あまの伊豆守はあまの御厨
あまの伊豆守はあまの御厨

あまの御厨

あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨

あまの御厨

あまの御厨はあまの御厨
あまの御厨はあまの御厨

ふんせんとせのふしよめ原女
かほのふしよめしよめ原女
新くせのふしよめしよめ原女
よめしよめしよめしよめ

業障女 本にらぬのふしよめ原女

花人式部連 母前書

あはれもやに西にわかれははな
しあひしよめしよめしよめ

花人式部連 母前書

つらさちあひしよめしよめ

あはれもやに西にわかれははな

よめしよめしよめしよめ

音 母前書

あはれもやに西にわかれははな

あはれもやに西にわかれははな

原女御書 母前書

清らぬ書 母前書

女将少方 母前書

あはれもやに西にわかれははな

あはれもやに西にわかれははな

太宰大貳

原女御書 母前書

あはれもやに西にわかれははな

あはれもやに西にわかれははな

あはれもやに西にわかれははな

前書き
あきら

保身のため
ゆづの葉
し女表

太宰女表

夕

豊後女

ち
の
う

次高

三郎

け
い
の

揚名分書

姉

兵部君

う

兵部大捕

大捕令婦

母

末

兵部大輔 ワシと云ふなり

大輔令婦 母は乳母

末つしは君のくし原代にまきり

不載系商人 いふかき春にほく松重路
カキ人 不載く

相意

後冷殿更衣 相意更衣女 朝貞
令婦

内侍 右大辨 典行 奏つる
朝貞の
朝貞の
朝貞の

友兼の安右 大花御 内侍

令婦

常本

大馬頭 藤式部忠 大馬頭妻

大畑云 本指女 大畑妻 若狭妻
朝貞の父

藤式部妻 中納言 藤式部
朝貞
朝貞

中将君 中納言
朝貞
朝貞

中納言

氏部のおり 一子は補のおり

夕歌

大貳乳母 惟光母 三河も 揚名女

中納言 大貳乳母
朝貞
朝貞 大進 大進
朝貞
朝貞 惟光 朝貞の
朝貞

夕歌上乳母 朝貞
朝貞 院人侍 文章博士

若は忠

小山守 小僧部 小僧部
朝貞
朝貞 下 朝貞
朝貞 母 朝貞
朝貞

意上外祖母 大相言
朝貞
朝貞 いぬ 朝貞
朝貞 お納言乳母

王令婦 年 朝貞
朝貞

上外祖母 大御言 いぬい おのゝ乳母

お侍御 お侍 王命婦 年 あつめ

たつ子 上女房 出立 上 出方 上

末摘花

左衛門乳母 大捕令婦 筑前 筑前

兵部補正 補令婦 中務 女 女 女

末摘のものと 竹尾 末摘 兵院

左近令婦

紅葉

冬儀 冬 冬儀 冬 冬儀 冬

花将 兼青殿 令婦 令婦

中納言君 女房 中務君 日上 小納言 乳母

大 一院 源曲侍

院

花宴 別人

あひ

兵院 末摘 小納言 めい 源曲侍

山之内 宰相 中納言君 中納言

あて 王命婦 中納言 中納言

あひ

王命婦 内侍君 小納言乳母

上侍女 中將 中納言 中納言

年 中 中 中 式 式

友 友 山 山 横 横

友重の母右山座言 横の信於の母の

花ちるはと

藤原宗殿女相重の四門乃女也 花ちる里代女

花ちるさ上女はと妹三とと

女郎との贈合は

と海

花ちる里代上 中御言君妻上 宗相名

宗上信女 藤原宗殿女女房 小納言乳母りのと

中務源氏 中將日官女 玉命婦

山傳坊 小納言君勝 子持信師

はりの上 大貳山方日 石上女

まゝの正女

あ

女流文流儀の正女 なる上母

花ちるさ上

淡漂

夕重女源氏 中將官女 中務日 上

花ちる里代 左院宣旨ありの娘 のとれ女

藤原宗殿女 栲は ち 母文 別当

母文内侍 母文は 女の と

蓬中

侍長 母院は 女の 母

大貳は 大貳は 大貳は 大貳は

未橋君乳母 とす 花ちるは

女は 信は のは 夫は

未橘君の乳母と云々 花らるる

女お 侍らるるの老く

関を 別人と

志あはせ

前母文女御由 仲理宰相 合はるる

午日侍の 梅つゆ 侍信 内侍 日上

女将命婦 日 大前内侍 の侍 中令母

兵部令母 日

きんりら 侍師 大出中將 奉養院より

松風

花女里上 的右母 中務親王 の祖文

氏部捕 乃おぬ 兼侍

花人 中 大弁 右近の御人

い次おき

的右母 乃おぬ の女房 花らるる

中将 原中 信部 下は侍 花らるる

あはるる

模の女院宣旨 源曲侍 右近の御人

花らるる里

し女

模女院宣旨 氏部 侍 乃おぬ

花中弁 潮朝 花大弁 入る侍 花らるる

氏部捕日 大内記 云井序母

模原方御まの入り侍 小侍信 乃おぬ

宰相君 乃おぬ 云井序乳母

宰相君タテマツのめのこと ちぎ井屋乳母

友田の女トモノメ花らる里ハナラリ上ノ徳母

むろ〜

右近 大史監 女メ戴書

三象ミナガタのめ花らるハナラリ所トコロ

〜

中将 くれらるクレラリ事コト

〜

中ナカ史シ監カン 右近 大史監 女メ戴書

〜

大史監

〜

あつこのアツコ言コト 女メ戴書 花らるハナラリ所トコロ

大権君オホイケンのめ花らるハナラリ所トコロ 中御ナカノミ君ノ日ヒ

かゆいカユイ火ヒ

右近 ぐらんグラン大史

〜

宰相君サウジョウのめ花らるハナラリ所トコロ 内侍ウチノツリ日ヒ花らるハナラリ所トコロ

大馬助オホウマタ夕ユフ三ミりのめ家イヘ人ヒト

行幸

右大臣ウチノナカ 女メ戴書 女メ戴書

〜

弁ヒメむろムロのめ女メ房ヒロ

〜

弁ヒメむろムロのめ女メ房ヒロ 女メ戴書

弁むらうのめ方 **女工君** 女工君の女

中将 中将の女房 **志上侍母** **中細言**

宰相 宰相の女房 **梅つえ**

梅つえ

大貳 大貳の女房 **花らり里内侍** 里内侍の女房

大將 大將の女房 **花らり里**

大井の房の女 **大臣** 大臣の女房

中務又 中務又の上

藤の 藤の上

右中将監 **清井の道作** **中務又**

左の房の女 **女工母** **花らり里**

大女の乳母 大女の乳母

宰相乳母 **花らり** **大女將**

その茶上

身首院 身首院の女 **女更衣** **女三三** **女**

丸中弁 丸中弁の女 **女御** 女御の女

山内 山内の女 **志上侍母** **務**

中目 **中細言** **和泉前司**

大將 **中細言** **花らり**

明石上母 **春** **文宣** **百曲侍**

小侍 小侍の女 **三三** **の女** **三三** **の女**

同下

同下

志上侍母 **め右尼** **中務君** 中務君の女

-2 282 38 753" data-label="Text">

僧部 僧部の女 **花らり** **里** **二** **条** **所**

白文

別入

紅梅

桜京大納言左女房

竹河

たよ子君 かねさす中納言おとよ

○

定治左部

さう 信左衛門

阿闍梨 定治左女房 小治左女房 柏木乳母

尾近右衛門左衛門の文ははらひ

推

あさひ

徳角

阿闍梨 中宮大史 白文 阿闍梨

早蕨

阿闍梨 大史君 中納言女房

やうり

上野大史 藤上左衛門 大史大史 白文 阿闍梨

梅京大史 白文 阿闍梨 白文 阿闍梨

中納言 中文大史 阿闍梨 阿闍梨

信左衛門 信左衛門

あはれ

源右衛門言 阿闍梨 阿闍梨

浮舟大史 阿闍梨 大史大史 阿闍梨

中納言 中納言大史 平手大史 阿闍梨

侍左衛門 阿闍梨 女房

うた

大納言 阿闍梨 大納言 大納言 阿闍梨

阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨

阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨 阿闍梨

うたわぬ

大浦しき 十将者 大内記通定

式部卿 式部卿 土着松也 四方 松平の 大内記通定

大内 大内 信房 信房の乳母 信房の

信房 信房 因幡 因幡 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 捕伸信 捕伸信 大内 大内 信房の乳母 信房の

信房の乳母 信房の 白文乳母 白文乳母 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の

うたわぬ

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 時方

信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

うたわぬ

横川僧部 同僧部者 小野尾 僧部

信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

大内 大内 信房 信房 大内 大内 信房の乳母 信房の 大内 大内 信房の乳母 信房の

ガキ

在り

山のふ

阿南の末

宰相老

紀伊の大臣

書生

宗の律師

三友の

横江傳助 小野の大臣

紀伊守

光徳氏

せらり

きり

まら

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

